

No.

Date

行政視察 印下

星谷 秋馬

今年の行政視察は

7月25日 水 福岡県朝倉市

26日 木 黒川温泉, 豊後高田市

27日 金 別府市, 国東市 を訪問した。

25日朝 60川馬尺 サラリーマン 村外族中心の人の波。また浪
東京一極集中を是正する必要を感じる。従来の東京本社、
行政官庁 地方の都市に移行する必要ありと

朝倉市 平成18年3月 近隣の市町の合併で誕生人口 5万7400人

平成29年7月九州北部豪雨では 人的被害 死者33人

行方不明者2人 負傷者16人。〈住居被害〉大規模半壊119件

半壊603件, 一部損壊427件 道路427件, 橋りょう207件

河川310件, 農林水産13,282件の大被害が発生被害を

受けた。国, 地方公共団体など 多方面から支援を頂きながら

復旧, 復興に取り組んでいる

大被害を受けた山間地域は 市内に初住 農地は復旧に
地域を復興し 産業も再成させたいとのこと。

伊豆市は 台風, 大雨は毎年通過 地震も 徳栄土山

再度避難場所 警報, 靄告の突如基準を早急に

確認する必要を感じる。

26日 木 黒川温泉

町長をほしめ スタッフ7人で説明

人口約4000人 峠の水の美しい観光と 農林業を主産業

宿泊44万人 日帰り60万, 約100万人の入込客数

NPO「日本で最も美しい村」に加盟し 登山村景観や

環境, 文化を守り 将来に渡り美しい地域を守り 続けること

景観条例 がかかまわらうれている

自治区の人々が我が町を良くする, 愛する気持ちが伝わり,

湧けたり 遊歩道 散策路におい

修善寺温泉, 天城湧け湯温泉は大変参考になり

自分さえ 自社さえ 言ければ 考えはすく

街全体が栄えり方策にしたい

豊後高田市 平成17年3月31日合併 人口22,861人

豊かな自然と歴史文化など地域資源は豊富

近年は人口減少対策の成功、「昭和の町」街を復活
させ 注目されている市である

観光に関しては 昭和の町 100年街並みを復活し

昭和30年代の懐かしい商店街を再現、幾多の困難と
努力があったであろう。今年年間35万人の観光客

本日は余りの暑さで 2人だけであったが...

時間があえば 街並みを散策したいが残念であった

「昭和の町」タイトルは自然体 ネーミング良い

何か特色があり、オリーフなどがあと 観光客がこない

町作りのヒント あり

しかし「旬彩献」すし近代的 外観は昭和30年代に
すばま 残念

人口対策

人口減少は日本社会全体の問題 豊後高田市は市長の方針
として 市の公的に 人口対策 職員に何でも実行せよと指示
今年 155の事業を展開、その補助金、支援金も盛り込んだ
条例をあげると

① 土地の売れ所に 住居用地 1坪 3万~4万2千円と格安で
販売し 奨励のこと

② 新婚士人応援 住居建設 12戸

③ 空き室 専業

毎年30軒以上が新規に登録し、契約(初住者)も年々
増加している。利用者は若年層が44% しかも市外者が70%

④ 定住促進 空き家 活用住居

家賃月額 40,000円と格安 満室とのこと

⑤ 子育て応援住居 これも満室とのこと

⑥ 就労支援 お仕事探し

⑦ 起業支援 仕事探し支援

⑧ 婚活 結婚応援 出会い、縁結びお世話

お世話し 結婚が成立すると 10万円の奨励金

教育面では 市営の資料室も開催

先生の口述、塾の先生方が協力して開催している

賞金は大学とトップクラス

文字がよくなる事業は実行の1年間で292人の社会増である。
大変参考になる。

伊豆市の人口2045年には15,100人と推計

事業の戻し、人口対策に集中すべき

27日金 大分県別府市 人口118,761人の10年間で人口変動

はない、熱海と並び国際観光都市、友好、姉妹都市は7ヶ所

もある。H28年度観光種 7,944千人 宿泊致 2,348千人

日帰り 5,595千人 近年は外国人が増加

H12年「立命館アジア太平洋大学」が開校 外国人留学生

が1811

「湯の園地」3日間動画100万回達成で開催

7月25日で494万回も記録

全国的にも注目、世界50ヶ国以上にニュース番組放送され

約100億円の広告効果とのこと

7月29~31日 3日間で14,000人入場

大成功には、市民、企業、行政、プロデューサーの連携は言うまでもない。

時間がなく市役所だけにとり残念。

国東市 世界農業遺産 2013年5月認定

国東半島宇佐地域の7木とため池において持続的に

維持されている原木、しいたけ生産をはじめとする

「循環型の農業水産業」の営みが世界的に価値あるものとして

認定された。

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長 杯浩昭氏

東京文芸院 助教授を辞して地元へUターン、自営農林業を

開始、その後 数々の異職も兼任し、地域社会に奉仕。

木材は軽いしいたけ生産量日本1位 35ア42%

しいたけの生産性を高め 農家の所得を上げ 地域経済を

実につぎ世代に伝える。

最後に

行政視察 訪問先で、議長、副議長、町長、事務局、各担当課
時間とかけ ていただき、我が町について説明して頂きました
心から感謝申し上げます。文彦君のあそび場建設
伊豆市の為 しっかり頑張る覚悟であります

事業の成功は市長、町長のトップが熱意と情熱をもち
常に市民目線で進めざる。そして実行力
我々議員も同じであります。